

別紙様式

令和4年度 学校評価自己評価表（最終）

a ミッション		b 評価計画				自己評価					学校関係者評価			改善計画	
ふるさと世羅を誇りに思い、地域の活性化に取り組む生徒の育成		aビジョン 他者や郷土を大切に、自ら進んで学び、何事にも一生懸命に取り組む生徒の育成							k 二次評価			l コメント	m 改善案		
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	2月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	イ	ロ	ハ	l コメント	m 改善案	
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ			
（研究主任） 学力の向上	基礎学力及びコミュニケーション能力を高め、自発的に他者と協働して課題解決を図る生徒を育成する。	基礎学力（知識・技能）の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 単元テストの実施や指導方法の工夫といった個に応じた指導の充実により、基礎学力の向上を図る。 各教科の目標達成のために、1人1台端末を効果的に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期テストにおける5教科の合計得点が150点以上の生徒の割合 生徒アンケートの「ICT機器を使った結果考える力がついたと思う」という項目における肯定的評価の割合 	90%以上	92.8%	83.6%	92.9%	B	<ul style="list-style-type: none"> 目標値を達成できなかった。7月の達成値と比べて9.2P減少している。3学年とも150点未満の生徒の割合が増加しているという結果になった。要支援生徒の固定化が進んでいると分析している。 ICT機器の活用についての肯定的評価は目標値を達成している。授業中においても生徒自ら必要な学習ツール（ドキュメント、ジャムボード、フォーム等）を選択する力が身につけていると分析している。 	7			<ul style="list-style-type: none"> しんどさを抱えている子も多い中、個に応じた支援の充実を図り、目標値に達成しており、先生方の日々の指導に感謝する。 小中学校でできていない事は、中学校でさらにしんどくなるので、小中連携を図り、学力向上の取組を進めていきたい。 目標達成に向けて生徒の集中力を高めるための要支援の生徒に対する個別指導の環境は良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科での実践事例を共有し、さらなる授業改善に生かす。要支援生徒に今最も必要なのは学習意欲であると捉え、学校として共通する学習スタイルの構築を行う必要がある。個別最適化された学習環境の整備を進めていきたい。 各教科での実践事例を共有し、さらなるICT機器の使用により、特に思考力・判断力・表現力を育成する効果的な方法を開発する。
			<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間における探究的な学びの時間を要として、全教育活動を通して自発性及びコミュニケーション能力を育成できるよう、カリキュラム・マネジメントの充実を図る。 かかわり合う場としてペア活動やグループ活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の「自発性・コミュニケーション能力」に係るアンケートにおける肯定的評価の割合 生徒アンケートの「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」という項目における肯定的評価の割合 	80%以上	91%	92.8%	116.2%	A	<ul style="list-style-type: none"> 2学期の生徒アンケート「自発性・コミュニケーション能力」に係るアンケートにおける肯定的評価の割合が92.8%であった。「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」という項目における肯定的評価の割合が95.0%であった。両値とも1学期の達成値を上回る結果となった。総合的な学習の時間を中心に、どの教科でも2つの資質・能力の育成を実践している成果であると考え。 	7			<ul style="list-style-type: none"> 先生方がビジョンを明確に実践された成果である。今後も探究的な学びが定着するよう小中連携を充実させたい。 生徒が教科で学んだことが、総合的な学習の時間の取組となり、先生も協力し、それがまた地域に繋がりを、生徒の学びにも繋がりを、とても良い取組である。 12月9日の校内研修で、子供たちが自分の考えや意見を伝え合っている姿を見て感心した。また、先生方の一生懸命な姿を見て、参加して良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 現状に満足することなく、総合的な学習の時間だけでなく、各教科でも探究的な学習のサイクルを意識した授業改善が必要である。特にカリキュラムマネジメントの考えを教職員間で共通理解を図り、総合的な学習の時間と各教科での相乗効果が得られるように単元構想等を工夫する必要がある。
特色のある教務主任（学校づくり）	小・中学校をつなぐ活動を展開するとともに、進んで地域に貢献する生徒を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 「総合的な学習の時間」「体験活動」、「挨拶運動」、「学校行事」などを小中の児童生徒を交流させる取組により、下級生の目標となる存在をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「『一生懸命はかっこよく、美しい』を意識して生活している」と肯定的に回答する生徒の割合 	80%以上	93.6%	94.0%	118%	A	<ul style="list-style-type: none"> 1月中旬の生徒アンケート「『一生懸命はかっこよく、美しい』を意識して生活している」と肯定的に回答する生徒の割合94.0%であった。コロナ禍で、学校行事（生徒会行事）が少ない中、体育大会や文化発表会で実践した『一生懸命はかっこよく、美しい』を、日常の学校生活でも継続して取り組んでいる。 	7			<ul style="list-style-type: none"> クリーン大作戦、体育大会等で共に活動したり、メッセージを小中学校にいただいたりして、中学生の姿が憧れになっている。自信をもって活動している中学生に元気をもらっている。 朝の挨拶運動に参加させてもらい、生徒の皆さんからの気持ちの良い挨拶を体験できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新生徒会本部役員や校長をはじめ全教職員が、教育活動全般で意識付けを行う。 ○コロナ禍ではあるが、生徒会活動を活性化させ、生徒自らの言葉として『一生懸命はかっこよく、美しい』が認知されるようにする。 	
		<ul style="list-style-type: none"> 町主催、地域主催の行事に生徒が積極的に参加し、役割を担う。 町主催の、作品募集に対して各教科からも応募を推奨する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「今住んでいる地域のために、地域の行事などに参加している。世羅町主催事業への作品応募をした。また、しようとしている」と肯定的に回答する生徒の割合 	75%以上	73.4%	97.0%	132%	A	<ul style="list-style-type: none"> 1月中旬の生徒アンケート「今住んでいる地域のために、地域の行事などに参加している。世羅町主催事業への作品応募をした。また、しようとしている」と肯定的に回答する生徒の割合は97.0%であった。クリーン大作戦・花いっぱい運動への参加、「ふるさとの絵画」やライオンズクラブの取組、世羅郡書展、世羅郡美術展等の作品応募が地域貢献に繋がることが生徒への周知できた。 	7			<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍の中ではあるが、学校でしっかり声掛けをしていただいている事が、地域行事への参加につながっている。 ○地域活動に中学生が参加してもらえよう活動を考えていきたい。クリーン大作戦では、リーダーシップを発揮し、小学生のお手本となった。 ○地域行事も再開してきたので、声をかけて参加してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍で行事が減ってはいるが、今後も、地域を活性化させようとする行事にはその意義を話し、積極的に出品する意識を高める。 	
子供と向き合う（教頭）	働き方改革を推進することで、「子供と向き合う時間」と「教師の時間」の確保を行い、職員が健康で高いモチベーションをもって勤務できるようにする。	業務の見直しを行い、超過勤務時間を減らす。また、教職員のタイムマネジメント力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 毎週1回、定時退校日を設け、年間の授業時数の配分を工夫することにより、定時に退校できるようにする。 業務の縮小を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎週の定時退校日の定時退校を実施できた教職員の割合 	100%	49.8%	51.3%	51.3%	D	<ul style="list-style-type: none"> 8月から1月の6か月で「毎週の定時退校日の定時退校を実施できた教職員の割合」は、51.3%であり、中間評価から1.5P上回った。 また、「超過勤務時間の合計が月80時間を超える職員を、毎月3人以下にする」ことについては、8月以降、8月0人、9月1人、10月1人、11月0人、12月0人、1月0人となっており、66.6%の達成率であった。中間評価から1.6P上回った。 	7			<ul style="list-style-type: none"> 中間評価よりもアップしており、意識して取り組んでいることが分かる。 働き方改革に対しての取組はなかなか難しさを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 定時退校日月の超過勤務時間も、特定の職員が達成できていない状況がある。校務の偏りや、若手職員の育成等に係り、タイムマネジメントの難しさが見られるが、引き続き声掛け等により、働き方改革に対する意識を高めていく。 7月から実施している、教職員の在校等時間の縮減についての取組による成果もあり、引き続き取り組んでいきたい。
			<ul style="list-style-type: none"> 超過勤務時間の合計が月80時間を超える職員を、毎月3人以下にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 超過勤務時間の合計が月80時間を超える職員を、毎月3人以下にする。 	100%	50.0%	66.6%	66.6%	D	<ul style="list-style-type: none"> 定時退校日の遂行割合については、タイムマネジメントと定時退校日に対する意識に課題であると考え。月当たりの超過勤務時間を超える職員については、8月以降の6か月で2人と減少傾向にある。主任職の働きかけや「時間外在時間」を表にして示す取組等の効果であると考え。 	7			<ul style="list-style-type: none"> 「できる事をできることから無理のないところ」が大事である。 超過勤務時間については、今後も引き続き取組をお願いする。 	

【自己評価 評価】
A：100≦（目標達成）
C：60≦（もう少し）<80

B：80≦（ほぼ達成）<100
D：（できていない）<60

【学校関係者評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。ハ：わからない。

世羅町立甲山中学校